

不等像の検査(位相差:Phase difference:ハプロスコープ)

準備物 Phase difference haploscope・不等像用スライド

眼位検査が可能な程度の半暗室にて、距離は自由に設定できるが通常、遠見 2m、近見 30cm に設定する

固視眼と思われる方を 0° にし、不等像検査の半月スライドを両プロジェクタに装用する

0° にした方を固視させ、被検者に他方を動かすようにさせ、水平偏位を修正させる

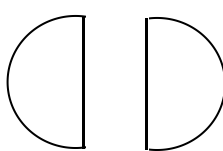
上下・回旋があれば、被検者の誘導によって検者が操作し調整する

NO

どちらかの半月スライドが小さいか？

YES

左右同じに見える

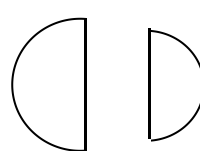


不等像なし

左半月が小さく見える



右半月が小さく見える



不等像あり

小さい半月スライドの方のプロジェクタの倍率を大きい半月スライドと同じになるまで上げる

例)

両半月が同じになった！

倍率を大きくして他方の半月と同じになったその時の直径の差が不等像(単位は%)

判定基準)

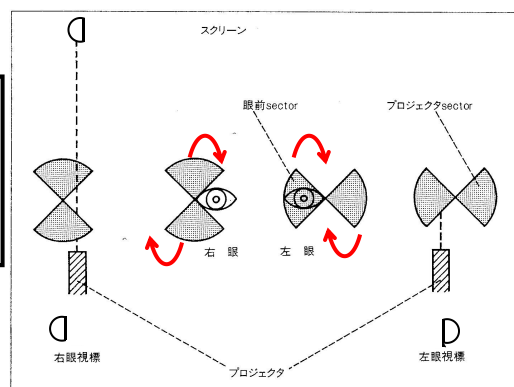
許容範囲:通常 5~7%

目的

不同視の可能性のある症例に対して遠・近視の不等像視が許容範囲を超え、両眼融像(立体視)が損なわれないかの把握(特に眼鏡・CLの装用時や片眼無水晶体眼等の不等像視の検査)

ハプロスコープの詳細は網膜対応検査の項で。

不等像検査のスライドによる見え方



原理

丸尾敏夫・久保田伸枝:斜視・弱視診療アトラスP47 図1一部改変

扇形のセクターを 90° の位相差で左右眼の眼前で高速で回転させ、左右眼を瞬間的に交代視させて分離する。そして各眼別々の視標をプロジェクタからスクリーンに投影し、自然な状態で検査できるようにしたもの。